文芸

❖俳句

沖雲の稲妻横へ走りけり　池田　逸子

背の子にうさぎを語る月の道　伊藤　敬子

鈴虫の亡骸一つ瓶の中　今関満喜子

鎮魂の読経の後は蝉しぐれ　魚地　照子

終戦忌記憶の底の空ば青　江森　悦子

雷雲を抜けてジャンボ機光る翼　大谷　武彦

屠場に出す牛の眼や月潤む　川島　孝夫

指折るや逝きし友数彼岸花　桑名　大行

蝉時雨房総の村めぐりけり　向後　寛

来し蛍に灯を消し音を消し　越川　福子

亡き父を恋うれば遠く雁が去る　越川　義則

マレットの猛暑の穴に沈む玉　小松　藤男

真菰馬川原に朽ちて夏果てぬ　佐瀬　輝夫

現し身の命の証蝉時雨　宍倉　道子

明日は逝く蝉かも知れずよく奏づ　鈴木とし子

夏草や首なし地蔵傾きて　玉虫　栗扇

役目終え疲れ見えたる案山子かな　土屋美枝子

スイッチョの居間に入りたるうすみどり　戸村　静華

八十路かな震へ手で書く夏見舞　長谷川正子

解体屋のダボダボズボン秋暑し　布施　和代

空蝉の空の眼に見られけり　山口　一秋

休日の回転木馬ちちろ鳴く　山口　とし

名月に世界平和を祷りけり　渡部　和秋

❖短歌

一面に拡ごる稲穂黄に染まり
大波小波秋風の吹く　伊藤　定男

魂むかえ偲ぶ来し方思い出は
良き事ばかり亡夫の声きく　越川　福子

癌と云ふ言の葉如何に重からむ
俎上の鯉となりて身に秘む　土屋マサ子

梅雨明けの炎暑つづけど夕暮れは
身に沁み徹る蜩の声　吉岡　信子

横向きに眠る女孫の頬の線
元禄袖の丸味思はす　佐瀬　初音

ひさ久に帰りし長男母の墓に
諸手を合せ頭さげるつ　永藤　滋

新米ができたと近くに住む友が
袋に入れて持ちきてくれぬ　池田　春江

夢と勇気オリンピックの感動は
老いたる吾の心鞭打つ　平山　芳子

陽に干され乾きし小豆の弾け飛び
莚のそとに転がるもあり　押尾　輝子

陽に向きて咲き盛りるひまわりの
中には背を向け咲く花もあり　鈴木まさ子

目を病みて久しき友の明るくて
ゴーヤの料理教へくれます　田崎　尚美

二階より見降ろす花壇は幾何学の
模様に色を際立たせるつ　八角　三枝

いつの日も心穏しき取締役
吾の生きゆく手本となさむ　島田ますみ

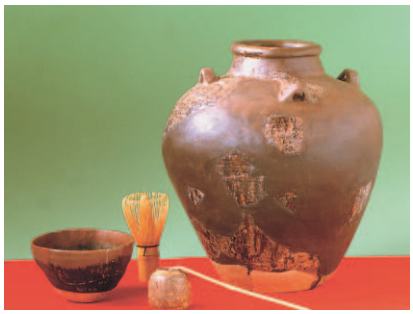
隠元を捩ぎゆく友の速きこと
吾の三倍を袋に満たす　西山満里子

放映をされるカナダのカルガリー
住める従姉を思ひ見てるつ　芹川　初子

波の音すると巻貝耳に当て
友ら渚に幼となれり　斉藤つね子

こうほう博物館 vol. 7

篠本城跡出土の茶道具

横芝光町の北部にあった篠本城跡は、平成五年から平成十年にかけて発掘調査され、城山台地を中心として周囲の台地にも広がる、規模の大きい中世城郭であることが分かりました。それぞれの曲輪には居館となる建物跡や、貯蔵穴と考えられる地下式坑などが多数検出され、多くの人々が住んでいた村落のような風景でした。また城跡から出土した遺物には、陶磁器や砥石をはじめ、銭貨・和鏡・刀装具等の小物から、五輪塔や板碑などの石塔まで様々なものがあります。そこで今回は色々な出土遺物の中で注目されるものとして、茶道具を取り上げましょう。

日本にお茶を飲む習慣が中国から伝わったのは、鎌倉時代に禅宗と共にと言われています。それと同時にお茶を飲む天目茶碗、茶葉を入れる茶壺と茶入れが入り、これら三点を茶道具三宝と言って珍重されました。特に中国製のものは数が少なく非常に貴重であったため、室町時代には瀬戸窯で似たものが盛んに作られ、全国に出回りました。しかし、これら茶道具三宝がそろって出土することは決して多くなく、篠本城跡からはそれぞれ別々に出土しました。この茶壺と天目茶碗は瀬戸窯、茶入れは静岡県金谷にあった志戸呂窯で焼かれたものです。このほか城山からは中国製の天目茶碗の破片が出土、これは天目茶碗専門の窯として知られた中国福建省建窯で焼かれたもので、同窯製では日本国内に国宝となっている耀変天目など四点をはじめ、優品が多く伝世しています。そのためたとえ破片であっても建窯製天目茶碗が篠本城跡で出土したことは、同城主が経済力と教養とを併せ持っていたと思われます。篠本城跡からはこのほかの茶道具として、湯を沸かす茶釜、抹茶を作る茶臼が出土しています。